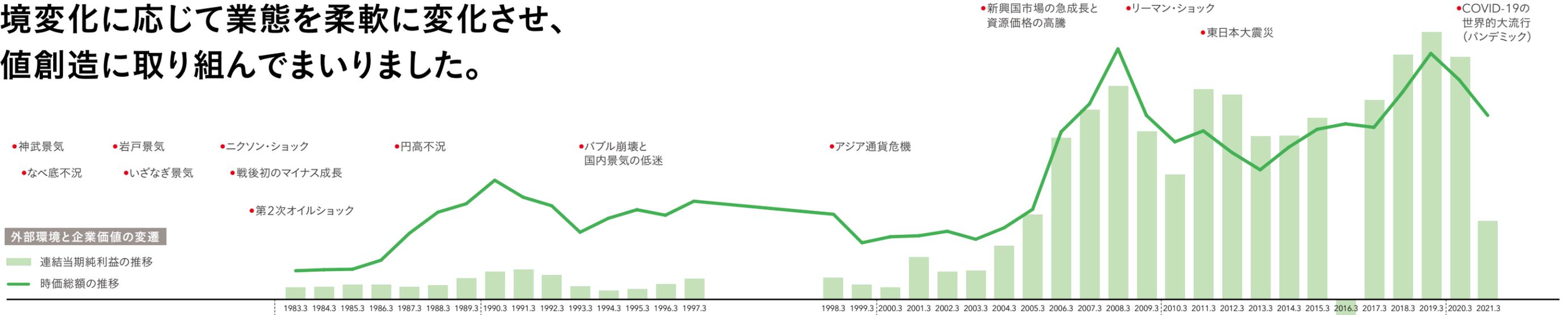


環境変化に応じて業態を柔軟に変化させ、 価値創造に取り組んでまいりました。



1870 創業

三菱商事は創業から1980年代まで、主に輸出入や中間流通といったトレーディング事業において、市場の変化や顧客のニーズに対応するために国境を越えてサプライヤーとバイヤーを結ぶ「仲介役」として、幅広い産業を下支えしてきました。高度成長期を経て1980年代までは多くの業界で取引量が拡大基調にあり、取引手数料が主な収入源であった当社の業績も伸びていきました。

1980s トレーディング発展期

1980年代半ばの円高不況とそれに続くバブル経済、およびその崩壊を経て、総合商社を取り巻く事業環境は厳しさを増していきました。いわゆる「商社不要論」が唱えられる中、三菱商事は「仲介役」から一歩踏み出し、川上・川下へのマイノリティ出資による取引量の維持・拡大や、中間流通事業者としての付加価値をもたらす機能強化に取り組みました。

2000s 業態転換期

2000年代に入ると、産業界全体のバリューチェーンの力学が変化し、仲介という事業モデルそのものの変換が求められるようになりました。そのため三菱商事は、仲介事業の枠を超えた事業モデルに活路を求め、事業投資を加速させることによってより積極的に事業そのものの運営に乗り出していきました。

2020s 事業経営期

三菱商事は資源市況の環境変化を受け、2016年3月期に創業以来初めての連結純損失を計上。その後は市況系と事業系のリバランスやキャッシュ・フロー重視の経営を進め、現在は「中期経営戦略2021」の下、成長の源泉を「投資」に求める発想から、事業の中に入り、主体的に価値を創造し成長していく事業経営へのシフトを図っています。また、社会課題の解決や新たな事業機会の創出に向けて、DXとEXの推進にも注力しています。



初代三菱社長 岩崎彌太郎



ブルネイLNG社



サウディ石油化学プロジェクト



メタノール製造販売会社METOR社



鉄鋼の総合商社(株)メタルワン



Cermaq社



Eneco社

- 1870 創業
- 1954 総合商社三菱商事新発足(大合同)
- 1957 日本における商社初の石油元売りに参画
- 1969 ブルネイLNG社を設立
- 1974 ケニア・モンバサ国際空港建設工事契約調印

- 1981 サウディ石油化学(株)合併基本契約調印
- 1985 北西オーストラリアLNG開発プロジェクトに三井物産(株)と共に参画
- 1989 英国食品会社Princes社を買収
- 1992 ベネズエラにメタノール製造販売METOR社設立
- 1992 サハラ沖原油・LNG開発プロジェクトに参画

- 2000 (株)ローソンと資本・業務提携
- 2001 資源メジャー、BHPピリトン社と折半でBMA社を設立
- 2003 鉄鋼総合商社の(株)メタルワン発足
- 2009 スペインの新エネルギー発電大手ACCIONA社と提携
- 2010 カナダでシェールガスプロジェクトに参画
- 2011 三菱食品(株)誕生
- 2012 ブラジルの穀物会社セアグロ社に出資

- 2014 Cermaq社を子会社化
- 2017 (株)ローソンを子会社化
- 2020 Eneco社を子会社化
- 2020 HERE Technologies社への出資
- 2021 NTTとDX新会社(株)インダストリー・ワン設立
- 2021 中部電力ミライズ(株)と中部電力ミライズコネクスト(株)設立